



**DATA**  
 ●部員数：女子34名 男子11名(1~3年生)  
 ●活動時間：週4回/2時間半程  
 ●ジャンル：ヒップホップ、ブレイク、ポップなど  
 ●最近のおもな成績：ダンスドリル全国大会出場/DCC決勝進出など



① 徐々に進んでいく筋トレはハード。  
 ② 曲編集も練習中に行なうレベルの高さ！  
 ③ 男子はブレイクやポップ、ロックなどの  
 オールドスクールに励む。  
 ④ 練習場所は体育館のギャラリーに移動式鏡を置いて。

埼玉県

大宮西高等学校

入部オーディションのあるエリート集団ダンス部

今年の夏の大会では、レベルの高い正統派ヒップホップで出場していた大宮西高校。最新のスタイルや今どきのダンスファッション、人気の楽曲を使用するなど、ストリート感たっぷりな作品が印象的だった。

体育館のギャラリーがダンス部の練習場。1年女子、2年女子、男子の3つのグループに分かれて、それぞれの練習メニューが黙々と進んでいく。練習中は、先輩と後輩の会話もほとんど見られない。女子のほとんどが経験者で学校外のレッスンに通っている生徒も多いため、学年それぞれのやり方で練習から作品作りまでをこなすという。その上、ダンス部に入るためには入部オーディションに合格しなければならないというから、これまた驚きである。

ダンス部に入るために入学する生徒は年々増えているが、1学年で12人しか入部できないという厳しいルール。厳選された部員が集まり、黙々とダンス研究に励む。これこそが、同校のダンス部のストイックさを生む理由なのかもしれない。

ドキュメント  
 ダンス部の  
 「日々」

オフシーズンである今が基礎力アップの練習どき。今回は埼玉の実力校2つと、都内の華やかな都立高校を大きくクローズアップ。



埼玉県

川口市立川口高等学校

「ダンス場」を備える伝統のダンス部

有名プロ野球選手を輩出したことで有名な市立川口高校、全生徒の15%を占めるといふダンス部は、専用のダンス場や移動式の鏡をいくつも備える、高校ダンス部としては非常に恵まれた環境だ。元々は創作ダンス部が母体となり、15年ほど前からストリートダンス主体に移行。ダンススタジアム決勝大会やDANCE@LIVEに出場するなど、埼玉県では実力派のチームとして知られる。

とはいえ、部活動の雰囲気は終始笑顔の絶えないムードで、まずは楽しむことがダンスの魅力、という基本姿勢が同校の強さの秘密なのだろうか。もちろん、真剣な話し合いの場面や叱咤激励も飛び交い、メリハリの効いた練習風景が印象的だ。「顧問はあくまでマネージメントで、生徒達に自主性や協調性を持ってもらいたいと思っています」と、顧問の岡田先生は語る。練習や振り付け自体は生徒たちが教え合うことで、部活でのアクティブラーニングとなり、コミュニケーション能力が育っていくという。以前は希望者だけコンテストに出していたが、部活全体の士気が下がってしまったこともあり、現在は学年全員でコンテストに挑戦していくスタイル。部内のモチベーションも雰囲気も良好とのことだ。

取材時、同校のダンス部=CREW DANCEは地域のイベント出演のための練習中。1年生は10月の荒川河川敷でのロックソーランと来夏のダンススタジアムへ向けて、2年生は来年6月の引退公演が最後となるが、まだまだ踊れる時間はたっぷり。しかし、少子化の影響と校舎の老朽化で同校は平成30年に他校と統廃合され、現在の1年生が市立川口高校生として卒業する最後の生徒だといふ。時には、OB・OGが訪れ指導やアドバイスする時もあるという同校。統合された後も、しっかりと「市立川口」ダンス部の伝統は息づいていくはずだ。



**DATA**  
 ●部員数：女子117名/男子18名(1~3年生)  
 ●活動時間：週5~6回  
 ●ジャンル：ヒップホップ、ジャズ、ロック、ソーラン節  
 ●最近のおもな成績：第3回かわけんダンスフェスティバル出演/NHKスクールライブショー最終回出演/ダンススタジアム2015全国大会出場



① 広々としたダンス場。以前には創作ダンス部と新体操部が使っていたそうだ。  
 ② 男子の見せ所はやっぱりアクロバット！  
 ③ ジャズダンスを希望した1年生が基本動作を確認する。  
 ④ 今年のダンススタジアムにて、サラリーマン衣装での作品はインパクトを残す。テーマ性の強い作品が同校の特徴だ。  
 ⑤ 怪我を防ぎ、可動域を広げるために、柔軟はみっちり行なう。  
 ⑥ 3年生がコーチになって、ロックダンスのレッスン。  
 ⑦ みんなの頼りの部長さん。代々部長は先輩の代が指名する。  
 ⑧ 1年生はソーラン節の練習。足腰が鍛えられるそうだ。

東京都

深沢高等学校

都会の洗練を感じさせる女子ダンス部と男子ダンス部

都内の閑静な高級住宅街にある深沢高校。開放的な校舎の中庭がこの日のダンス部の練習場だ。ぱっと見ると、男子の活発な姿が目につく。ダンス部が男子と女子に部活が分かれていて、それが男子にとって入部しやすい状況を作っているようだ。都会の子たちが集まっているからか、レッスンウェアもこなれた感じでオシャレ(次ページ参照)。部活後に、都内のダンススクールへ行く生徒も多いという。

沢田先生が顧問についた9年前は、生活態度や髪型などに問題がある生徒が多かったらしい。「生活指導を細かく厳しくし、練習も筋トレやアイソレなどを徹底するようにしてから変わってきましたね」。練習中は厳しく、それ以外は気さくな先生と生徒のメリハリの効いた関係を作っているようだ。

この日はイベント前日で30分のナンバーの通し練習。さまざまなスタイルが男女混合で練り出される。通し練習中は男女で声援を飛ばし合って盛り上げ、このへんも都会の洗練された若者ならではのダンス部の光景が垣間みれた。



① ハーフや外国籍の生徒が多いのも都心ならではの。  
 ② 練習中は常に笑顔が絶えない。  
 ③ 練習場所はこちらの中庭と、鏡付きの体育館を時折使う。通しリハ後は顧問からの厳しい指摘があった。  
 ④ 初心者の入部は4割程度。年によってレベルのバラつきが出てしまうのが悩みだといふ。